



# ニュースレター

2025年（令和7年）3月5日 グリーフワークかがわ広報部

## ◆子どもの声が聞こえますか？◆

### 子どものグリーフ週間・街頭キャンペーンのお知らせ

当法人では普及啓発活動の一環として、毎年グリーフワークデー啓発街頭キャンペーンを行っています。とくに幼い子どもたちの喪失とグリーフワークについて意識を高く持っていただくために「子どもの声が聞こえますか？」をスローガンにキャンペーンを行っているものです。悲しい出来事に遭遇した子どもは、孤独で支えを失った感情の中にいます。悲しみの中にある子どもを支えるためには、子どもをとりまく環境や社会を変えることが必要です。

（詳細はこちらをご覧ください。 <https://www.griefwork.jp/pdf/gwday.pdf>）

下記の日時、場所にて、ヴァイオレットリボンとチラシを配布します。当日は、赤い羽根共同募金で参加しているテーマ募金の募金活動も行います。どうぞよろしくお祈りします。

日時 2025年3月9日（日）11:00～12:00

場所 JR 高松駅北交差点（雨天の場合は変更の可能性がります）



（認定 NPO 法人グリーフワークかがわ広報部）

## ◆【報告】NPO 法人「わがこと」から取材を受けました◆

2025年2月14日にNPO法人わがことの取材を受けましたので報告します。

NPO法人わがこと (<https://wagakoto.jp/>) は、「民間非営利活動組織に対して担い手の発掘や継続的に活動するための活動基盤の強化、またそれらと企業および地方公共団体との連携の強化を図り協働を促進することにより持続可能な社会の実現に寄与すること（定款から抜粋）」という目的に向けて、各分野、各地域の民間非営利活動団体、企業及び地方公共団体における民間非営利組織の情報収集及びその公開と発信を行っている団体です。香川県主催のNPOマネジメント講座の講師としてNPO法人の支援を行っており、当法人も指導を受けている法人の一つです。今回は当法人の活動についてNPO法人わがことのホームページに掲載して下さるための取材でした。

（これまでの取材記事 [https://note.com/wagakoto\\_npo/m/me4745ea3c80b](https://note.com/wagakoto_npo/m/me4745ea3c80b)）。

まず、当法人の沿革、目標、事業内容の説明を行い、特に私たちが伝えたいこととして、グリーフワーク研究会の立ち上げが、事故で娘をなくしたひとりの母親の声から始まったという原点につ

いて、そして、社会的な立場や役割を越えた生活者としての、暮らしにそれぞれの喪失があり、一人ひとりがその人のグリーフワークの過程を歩んでいくこと、誰もがグリーフワークの当事者であることをお話ししました。

法人運営の課題として、活動資金、活動場所、会員の継続のモチベーションなどについて質問を受け、現状をお伝えするとともに、他団体の取組みのいくつかをご紹介いただきました。そのなかでとりわけ印象に残ったのは、世代を超えて長く続いている団体は、常に、活動の原点に意識的に、しかも繰り返して立ち戻って、互いに確認をしているという話でした。私たちも、活動の原点を語り継いでいきたいと思いました。

最後に、広報活動について話し合いました。イベントなどで一度大きく取り上げられるより、たとえ参加者が少人数であっても、根気強く啓発活動を重ねていく、そうした草の根運動こそが、地域にグリーフワークの理解が浸透していくと考えているということを伝えました。

NPO法人わがことから取材に来てくださった片山さん、小道さんに感謝申し上げます。当法人の対応は事務局村上、杉山が担当いたしました。

(文責：グリーフワークかがわ事務局 杉山洋子)

## ◆【技術援助報告】土庄町ゲートキーパー養成研修◆

2024年12月10日(火)に土庄町役場にゲートキーパー養成研修講師として派遣されました。対象者は町職員20名、内容はゲートキーパーのためのグリーフワークとしました。

まずは喪失と悲嘆のためのガイドブックをもとに、基本的な用語を実例や引用記事などを用いて説明いたしました。グリーフという用語を聞いたことがあるかを尋ねて、その反応を見ながらグリーフワークとグリーフケアの違いを説明しました。役場での対面の仕事をする上でゲートキーパーとして留意すべき点などを、講師自分の失敗などを交えなるべく現実的な場面を想定して話を進めました。

ワークとしては喪失史のグループワークをして、自分の歴史を振り返ってもらいました。またそれをグループで共有し、客観視する作業の中で、その出来事に新しい意味付けが加わったり、悲嘆の度合いが変化していくことへの気づきが報告されました。また、感想として、その時に出来なかったことへの後悔、そばで支えてくれた人への感謝など様々な感情が述べられました。

続いて、お寺の掲示板を参考にして、それぞれが大切に思う言葉をもとにグループワークをしてもらいました。グループによっては驚きの声や、なるほどと賞賛の声も聞かれました。グループワークを通して、自分の考え方の傾向を知る、他人の考え方や感じ方を知ることは自分の引き出しを増やす狙いでもあると説明しました。各自大切にしている言葉やその背景や意味などをグループで共有して終わりました。

アンケート結果では、対面時の言葉の選び方、問いかけの仕方などに工夫をしたい、喪失史を書くことで自分の悲しみが周囲とのかかわりのなかで癒されてきたことに気づいた、などありました。「人は独りでは生きられない」という感想に小豆島というコミュニティのやさしさを感じる派遣となりました。

(文責：認定グリーフカウンセラー 多田葉子)

## ～ Feeling in Daily Life ～

### ◆ミモザの花咲く季節に◆

数年前、マンション暮らしから小さな庭のある一軒家に引っ越した。庭のある家に、シンボルツリーとして、春の訪れを告げるミモザの樹を植えるのが、私の長年の夢であった。小さな小さなミモザの樹を買って植えて数年。そして、ようやく、昨年、枝もたわわに、黄色のかわいい花をつけてくれるようになった。日々、可愛い花に癒される日々を送っていたのだが、相方が、くしゃみ、鼻水が止まらない事態に。病院で受診したところ、ミモザの花粉症との事。去年は、薬を飲みつつ、顔マスクをして、ミモザの季節をやり過ごしてくれた。庭師の方に聞くと、ミモザの花粉症はきついらしく、ミモザを切ってしまった家もあったとの事。



思い描いた未来、夢、それが実現した先には、思いもよらない事も起こるものだと改めて思う。それでも、日々の営みは続いていく。3月4月は旅立ちの季節。人生山あり谷あり。行った先が思い描いたものでなかったとしても、方向転換できる、しなやかさを持っていたいもの。しかし、気持ちはままならぬもの。

今年は、花を楽しむ間もなく、切り花にしていかねばならない、相方の症状により、木を切らなくてはならないかもしれない、いろいろな不安を持ちながら、毎朝、日々、ふくらむ蕾を眺めている。

認定グリーフカウンセラー えっちゃん

---

### ◆2025年2月9日 第206回理事会◆

#### 《審議事項》

#### 第1号議案:1月末の会計に関する事項

1月末現在の貸借対照表と損益計算書に基づき事務局長から説明がありその内容について了承された。この内容でコンサルテーションを受ける予定である。年度末を控え、各事業の報告を確認しながら今年度の事業費見込み額の算出をしていく。

#### 第2号議案:認定カウンセラー必須研修に関する事項

教育研修担当理事から、必須研修のテーマと講師との協議内容の説明があり了承された。2月21日(金)と3月21日(金)の2回開催(同内容)とする。担当理事が当日まで講師との調整を行う。

#### 第3号議案:桜町教会と上智大学グリーフ研究会のイベントへのパネリスト派遣依頼に関する事項

当法人として、宗教や思想信条、社会的役割などを越えたところで、一人ひとりが生活者として暮らしの中のグリ

ーフワークを理解し、地域で互いにグリーフケアが行き交うことを目指していることを述べる機会と捉えパネルディスカッションへ理事を1名派遣することで了承された。

#### 第4号議案：グリーフワークデー街頭キャンペーンに関する事項

今年度も3月11日から16日を子どものグリーフワーク週間として、JR高松駅前で行うことで了承

された。準備は2月27日(木)19時から相談室で行うことで了承された。街頭キャンペーンの日時については、今年度は3月9日(日)11時から12時で行うことで了承された。

#### 第5号議案：身近な人をなくした方のグループミーティングの資料管理に関する事項

認定カウンセラー会議で提案のあった資料管理のための物品購入について、相談担当梶浦理事から情報収集の結果が報告された。詳細については認定カウンセラー会議での意見、グループミーティング担当者の意見も聞き、来年度予算に盛り込んでいくことで了承された。

#### 第6号議案：役員改選に関する事項

現在の理事、監事の任期が2025年度通常総会までであり、理事2名と、監事1名から退任の希望が申し出られている。次回の理事会までに理事長から意志確認を行うこと、監事候補についてはコンサルテーション時に相談をすることで了承された。

以上

---

### ～ 編集後記 ～

花粉症の記事がありましたので、花粉症について。

日本でスギやヒノキなどの花粉症に悩む人が増えているのは、第二次世界大戦後、森林資源の回復や増大を目的としてこれらの樹木が大量に植林されたことも要因の一つ。大量に植林されたスギやヒノキ。適切に間伐等手入れされていれば適量であるのですが、戦後の私たちの生活の変化、外材の輸入による国産材の価格の下落により手入れされない山が増加。そのため、花粉飛散量も増加。いわば人災ともいえるかもしれません。また、大気汚染や地球温暖化、食生活の欧米化、住環境の変化、ストレスなども要因に挙げられています。人間の事情により、良くも悪くも言われてしまうスギ、ヒノキ。花粉症の辛さは症状によっては日常生活も困るほど。しかし、スギ、ヒノキにも、それぞれの事情があるのですよね。もし、スギ、ヒノキが、喋れるとしたら、私たち人間に、何ていうのかしら？と、ふと考えてしまいました。(青木)

